



# 小学生に 新ゲーム様式導入

年々、活気を増す小学生ハンドボール。ハンドボーラーにとって、長い競技人生の入り口となるこの時期に、より正しい習慣を身につけようと、新年度から新ゲーム様式の導入が決まった。ここではその狙いととも、新ゲーム形式をレポートしていく。

全国小学生大会の活況ぶりなど、小学生ハンドボーラー、指導者のモチベーションの高まりはうれしい限りだ。

その反面、試合に勝つということに重きが置かれ、6mライン付近で引いて守るのがハンドボール、といった固定観念の中でのプレーにながり、自由にボールを奪ったり、コートをいっぱいに使って走り回るといった子どもらしい発想やコート中盤での判断力が伴っていない、という課題も見えてきた。

そこで、2012年に日本協会技術委員会の中に「U-12ゲーム様式検討委員会」が立ち上げられた。

そして、少年期の子どもたちがハンドボールの魅力を味わいつつ、正しい習慣(Good Habits)を身につけ、将来にわたって発展していくために「正確な基礎基本の技術の習得」「正確で素早い判断力、多面的能力の養成」「ハンドボールにおける広がり」と奥行き感覚の養成「1対1の強さの養成」を具現化できる、新しいゲーム様式の導入に着手。試行期間を経て、今年4月から「Jクイック

# U-12 新ゲーム様式

## ①新様式の前提

指導者は「U-12の指導理念（速いゲーム展開の中での積極的なDF）」の具現化に努めることが求められる

## ②コートのおおきさ

**36m×20m**

※詳細は右図参照

## ③試合時間

**3セット制（10分×3）**

※3セットの総得点で争う

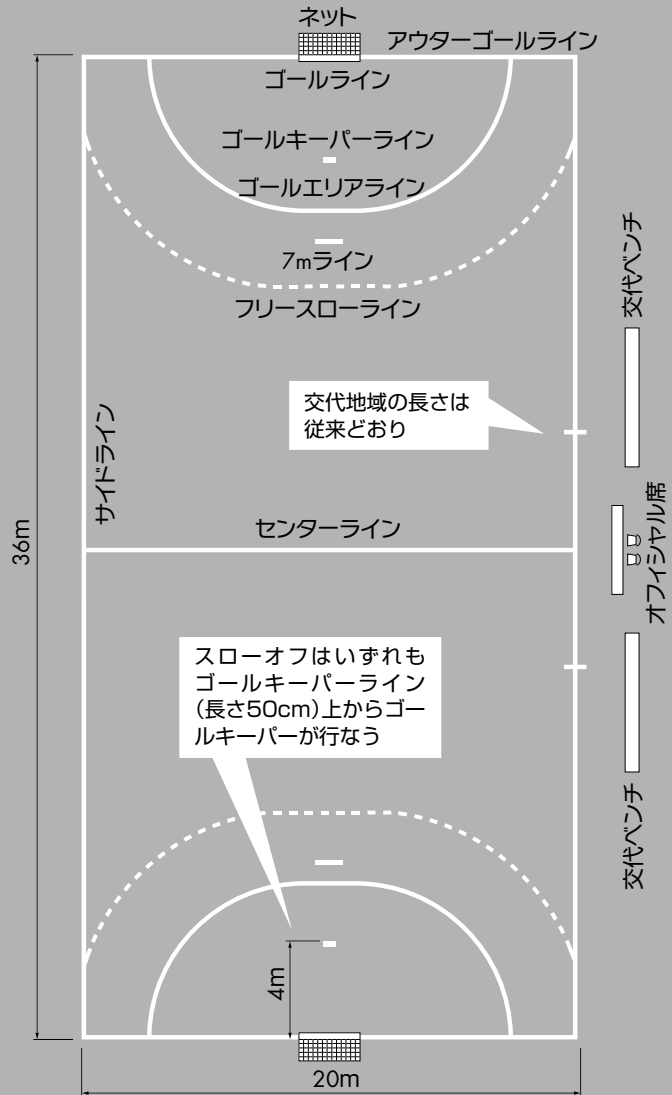
※インターバルは5分間

※記録席にセット回数を表示

## ④試合開始

- ・ゲーム前のトスによりサイドとスローを選択
- ・セットごとに両チームはサイドを交代し、スローオフも交互で行なう
- ・スローオフはゴールキーパーからのスロー
- ・ゴールキーパーはゴールキーパーライン上から、審判の笛の合図でスローする

※9mラインの外でDFすることのルール化も検討されたが、レフェリーの見極めも難しく、この新様式には採用されなかった



スローオフはいずれもゴールキーパーライン（長さ50cm）上からゴールキーパーが行なう

交代地域の長さは従来どおり

交代ベンチ

オフィシャル席

交代ベンチ

クハンドボール」として、新ゲーム様式が導入される運びとなった。

新様式は日本協会競技規則をベースに、より速く、切れ目のないコート中盤の展開も重視することで、①36m×20mのコートで②3セット制（1セット10分、総得点制）を採用し、さらに③ゲーム開始も含め、スローオフはGKがゴールキーパーラインから行なう、こととなった。

この新様式の導入の狙い、効果を「日々の練習方法が変わること、トータルの力が身につけば、早い段階からバックプレーヤー、サイド、GKとポジションを固定せず、コート中盤での展開、技術も楽しむことにつながる」と語る日本協会小学生委員会・山本繁委員長。

すでに全国各地で新様式が導入されて試合が行なわれ、その試合では「NTS（ナショナルトレーニングシステム）が推奨し、取り組んでいる積極的なDFや、止まってではなく、動きながらパス回しをする姿勢につながっている（同）という。

趣旨を踏まえたくうえで、新様式のスムーズな浸透を望みたい。